

我孫子市鳥の博物館調査研究報告第5巻：175-185（1996）

## 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅷ —ヨシ原、水田、畑地、斜面林（1995）—

齊藤安行・大山紀子

キーワード：鳥相、個体数調査、ヨシ原、水田・畑地、雑木林、手賀沼

### はじめに

手賀沼は千葉県北部に位置する湖沼で、古くから水禽類の渡来地として知られている（黒田1985）。我孫子市鳥の博物館と山階鳥類研究所は、手賀沼とその周辺の鳥類の生息状況を把握するため調査を実施している。調査では、調査地周辺の環境を①水面、②ヨシ原、③水田・畑地、④斜面林に区分し、各環境区分ごとにセンサスを行っている（齊藤ほか1992a, b, 齊藤・大山1993, 1994, 1995, 平岡ほか1994, 1995）。

本報文では、ヨシ原、水田・畑地、斜面林の三つの環境区分におけるセンサス調査について、前報（齊藤・大山1995）にひきつづき、1995年の調査結果を報告する。

なお、調査にあたって、敷地内の立ち入りを快く許可して下さった株式会社日立総合経営研修所および同施設の関係者の方々に深く感謝いたします。

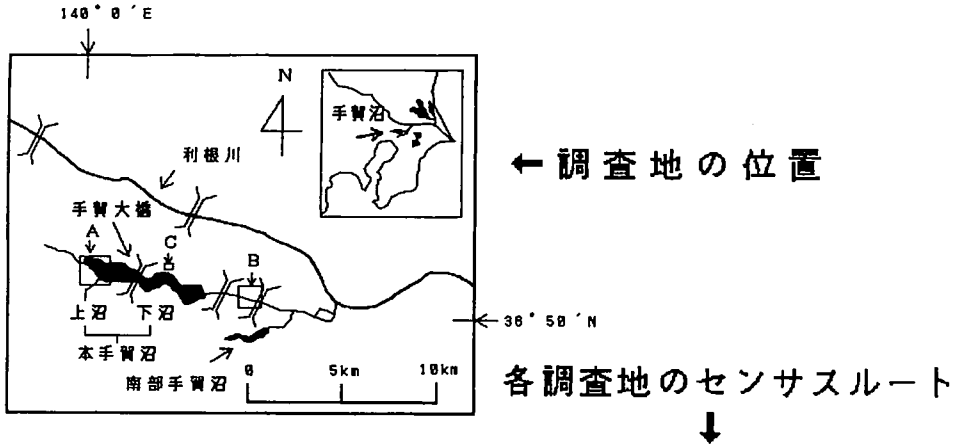
### 調査地と方法

手賀沼は北部と南部二つの沼からなり、それぞれ本手賀沼、南部手賀沼と呼ばれているが、調査は本手賀沼周辺（以下「手賀沼」と呼ぶ）で行った。

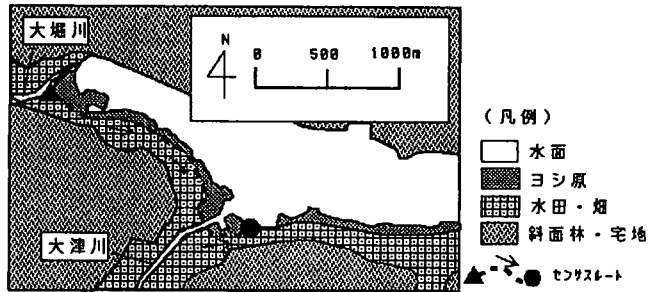
手賀沼は、開放水面の面積が約360haの水域で、周囲は堤防で囲まれている。水面と堤防の間には、ヨシ、マコモ、ヒメガマなどの抽水植物群落が生育し、いわゆるヨシ原となっている。堤防の周囲には水田・畑地が広がり、その背後は高度差10mほどの斜面で、シラカシ、スダジイなどの常緑広葉樹、アカマツ、スギ、ヒノキなどの針葉樹、コナラ、ケヤキなど落葉広葉樹の二次林でおおわれている。これらの環境を①ヨシ原、②水田・畑地、③斜面林に分け、各環境区分の中にそれぞれセンサスルートを設け、各ルートにつき月1回の割合で調査を行った（図1、付表）。

調査者は、センサスルートに沿って歩きながら、観察範囲内に出現した鳥類の種名と個体数を記録した。観察には、双眼鏡（8倍）と地上望遠鏡（30倍）を用いた。調査日時、天候は付表に示したとおりである。

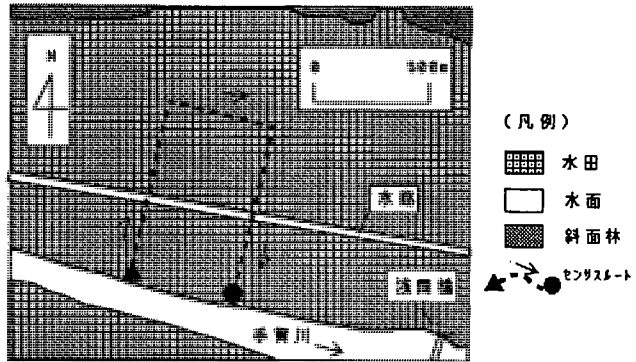
各調査地の概況、センサスルートの詳細については、我孫子市鳥の博物館調査研究報告第2巻（齊藤他1993）に記したとおりである。なお、各調査地のセンサス調査範囲の面積は、ヨシ原が14ha、水田・畑地が44ha、斜面林が6haである。



A: ヨシ原



B: 水田  
畑地



C: 斜面林

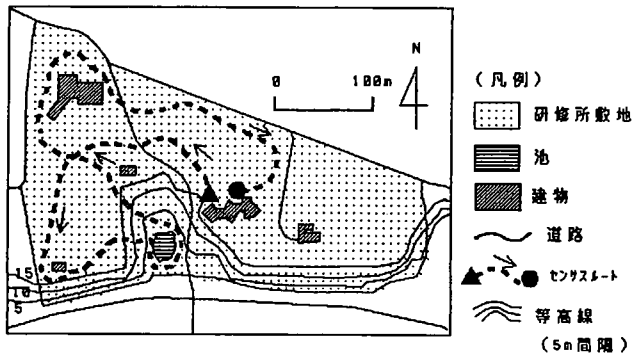


図1 調査地とセンサスルート

## 調査結果

### 1 ヨシ原

ヨシ原では、7日16科29種の鳥類が出現した(表1)。

月別の出現種数は、最大17種(11月)、最少3種(6月)であった(図2)。月別の出現個体数は、最大190羽(2月)、最少25羽(4月)であった(図3)。

年間の累積個体数を比べると、多い順に、スズメ(292羽)、オオヨシキリ(115羽)、カワラヒワ(84羽)、ホオジロ(80羽)、オオバン(71羽)、ツバメ(57羽)、オオジュリン(57羽)、カルガモ(50羽)、アオジ(23羽)、ツグミ(22羽)と続く(表2)。

また、春(3, 4, 5月)、夏(6, 7, 8月)、秋(9, 10, 11月)、冬(1, 2, 12月)の季節別に個体数の優占割合上位5種を比べると(図4)、春期はオオヨシキリ、オオバン、オオジュリン、ホオジロ、ツバメ、夏期はオオヨシキリ、ツバメ、スズメ、オオバン、カルガモ、秋期はスズメ、カワラヒワ、カルガモ、ホオジロ、オオバン、冬期はスズメ、ホオジロ、カワラヒワ、オオジュリン、オオバンであった。春期と夏期には、オオヨシキリが最優占種、秋期と冬期にはスズメが最優占種となり、全季節を通じて、オオバンが上位5種に入っていた。

### 1. 2 水田・畑地

水田・畑地では、9日20科36種の鳥類が出現した(表3)。

月別の出現種数は、最大15種(5月)、最少2種(10月)であった(図5)。月別の出現個体数は、最大258羽(3月)、最少42羽(10月)であった(図6)。

年間の累積個体数を比べると、多い順に、ヒバリ(431羽)、ハシボソガラス(174羽)、ツグミ(127羽)、ツバメ(114羽)、スズメ(109羽)、タヒバリ(101羽)、ムクドリ(72羽)、キョウジョシギ(54羽)、ムナグロ(54羽)、カワラヒワ(54羽)と続く(表4)。

また、春(3, 4, 5月)、夏(6, 7, 8月)、秋(9, 10, 11月)、冬(1, 2, 12月)の季節別に個体数の優占割合上位5種を比べると(図7)、春期はハシボソガラス、ヒバリ、ツグミ、ムナグロ、キョウジョシギ、夏期はツバメ、ヒバリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、秋期はヒバリ、スズメ、ハシボソガラス、ツバメ、ハクセキレイ、冬期はヒバリ、ツグミ、タヒバリ、スズメ、ホオジロであった。年間累積個体数第1位のヒバリは全季節を通じて上位5種に入り、特に秋期と冬期は最優占種であった。

### 1. 3 斜面林

斜面林では、6日17科35種の鳥類が出現した(表5)。

月別の出現種数は、最大23種(1月)、最少6種(7, 10月)であった(図8)。月別の出現個体数は、最大106羽(1月)、最少29羽(8月)であった(図9)。

年間の累積個体数を比べると、多い順に、ヒヨドリ(232羽)、メジロ(66羽)、スズメ(59羽)、アオジ(58羽)、カワラヒワ(49羽)、シジュウカラ(47羽)、キジバト(33羽)、ムクドリ(33羽)、ハシブトガラス(17羽)、ウグイス(14羽)と続く(表6)。

また、春(3, 4, 5月)、夏(6, 7, 8月)、秋(9, 10, 11月)、冬(1, 2, 12月)の季節別に個体数の優占割合上位5種を比べると(図10)、春期はヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、スズメ、カワラヒワ、夏期はヒヨドリ、スズメ、キジバト、シジュウカラ、ハシブトガラス、秋期はヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、アオジ、スズメ、冬期はヒヨドリ、アオジ、メジロ、カワラヒワ、シジュウカラであった。ヒヨドリは、全季節を通じ

表1 ヨシ原のセンサス結果 (1995年)

種名	月/日											
	01/11	02/16	03/16	04/14	05/16	06/16	07/14	08/24	09/14	10/18	11/16	12/19
ヨシコイ							2	3				
コイサキ						2	1					
アサキ							1					
カガモ					4			5		1	16	24
コガモ											1	1
キン	1			1						1		
クイナ											1	
ハン				2				3		1		1
オハン		24	24				6	3	2	1	11	
キンハト	1	1	1	2				3		1	3	3
ガモミ										2		
ツハメ				5	11		36	3	2			
ハクセキレイ	2	1								3		
セグロセキレイ										1	2	
タヒバリ											3	
ヒヨドリ	1									1		
モズ									1		1	
ルビキ										1		
ツグミ	8	9		2							1	2
ウグイス	1		3								1	3
オヨシリ					53	27	31	4				
セッカ				1			1			1	1	
ネオンロ	15	26	14	4						1	14	6
アサキ	2	9	3	2							1	6
オシユリン	7	10	16	4							4	16
カワビワ	9	15	2	2	1			1	4	12	19	19
スズメ	31	95	3			3	28	5	76	9	32	10
ムクドリ	4		1							2		
ヘビシメ											6	
個体数合計	82	190	67	25	69	32	104	32	85	38	117	91
種数	12	9	9	10	4	3	6	11	5	15	17	11



図2 種数の月変化 (ヨシ原)

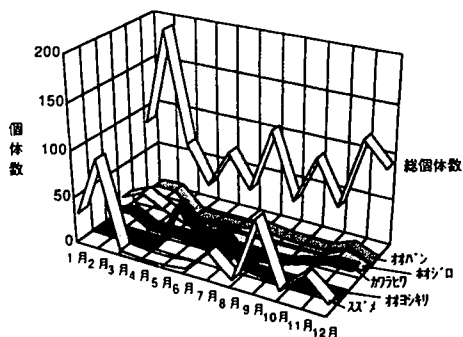
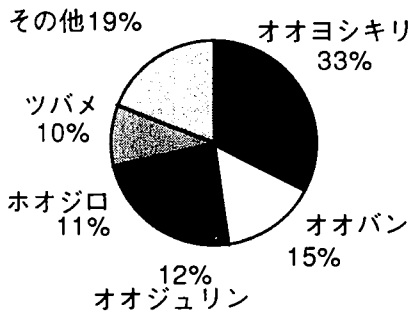


図3 個体数の月変化 (ヨシ原)

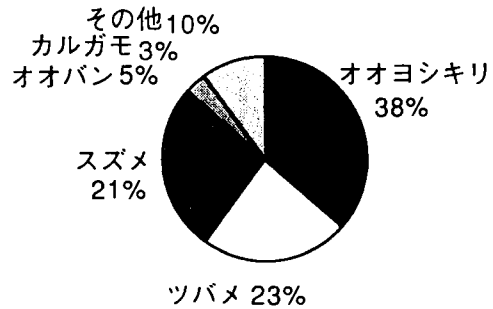
表2 種別年間累積個体数 (ヨシ原)

順位	種名	個体数	順位	種名	個体数
1	スズメ	292	16	ハクセキレイ	6
2	オオヨシキリ	115	17	ヨシゴイ	5
3	カワラヒワ	84	18	セッカ	4
4	ホオジロ	80	19	外ハリ	3
5	オオバン	71	20	セウチキ	3
6	ツバメ	57	21	キジ	3
7	オオジュリン	57	22	ゴイサキ	3
8	カルガモ	50	23	カケミ	2
9	アオシ	23	24	コカモ	2
10	ツクミ	22	25	ヒヨドリ	2
11	キジバト	15	26	モズ	2
12	ウグイス	8	27	クハ	1
13	バン	7	28	アサギ	1
14	ムクドリ	7	29	ヒメ	1
15	ヘビ	6	計		932

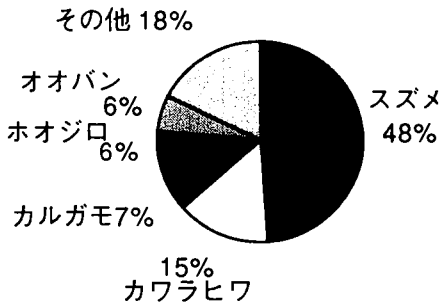
春期 (3,4,5月) の累計(n=161)



夏期 (6,7,8月) の累計(n=168)



秋期 (9,10,11月) の累計(n=240)



冬期 (1,2,12月) の累計(n=363)

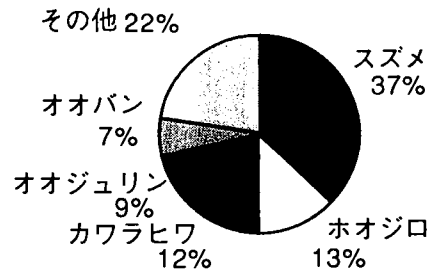


図4 各季節の優占種 (水田・畑地)

表3 水田・畑地のセンサス結果 (1995年)

種名	月/日											
	01/11	02/16	03/16	04/14	05/16	06/16	07/14	08/24	09/14	10/18	11/16	12/21
カイツブリ							2					
コイサキ						2	1					
アマサキ							1		2		1	
タノサキ				2	1	2	1		2			
チュウサキ				2	1	3	9	3	5		9	
コサキ									1			
カサガモ					1	4						
チョウゲンホウ	1											
キン						2						
バン					2							
タマシキ					2							
ムナグロ				10	44							
タケリ												1
キョウノヨシキ						54						
タンキ			1									
キアシキ					8							
キンハト			10	11				5	1			6
ヒバリ	64	100	47	23	14	11	19	11	26	41	12	63
ツバメ				2		4	34	36	38			
ハウセキレイ	4	3							26		2	
死ヒバリ	17	22	31	7					1		15	8
モズ									1	1		
ツグミ	20	33	28	44								2
オオヨシキリ					5	2	1					
セッカ		1			4	5	8	17	4			
ネオシロ		1										
ネオアカ		1										
カシラガカ		2	1	1								
オオシユリン		7	4									7
アトリ				37								
カラビワ		2	44	4	1	2						1
スズメ	10	2			1	3	4	9	76			4
ムクドリ		6	13	15	7	5	18					8
ハシホシガラ		7	63	37	14	4		2	2		40	5
ハシブトガラ		7	3	1		1	1					2
ガラス属sp.							2					
カラハト(トハト)			13			4						
個体数合計	116	194	258	196	159	54	101	83	185	42	88	107
種数	6	14	11	14	15	14	12	7	13	2	7	11



図5 種数の月変化 (水田・畑地)

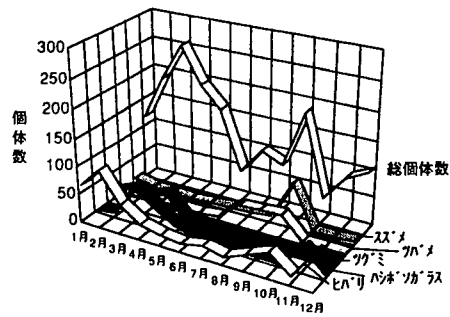
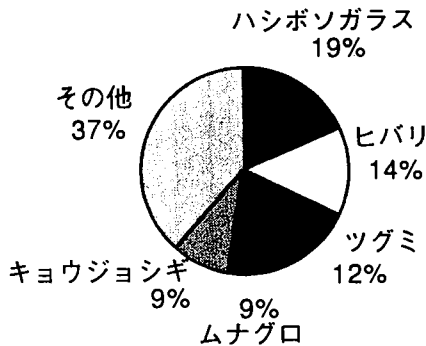


図6 個体数の月変化 (水田・畑地)

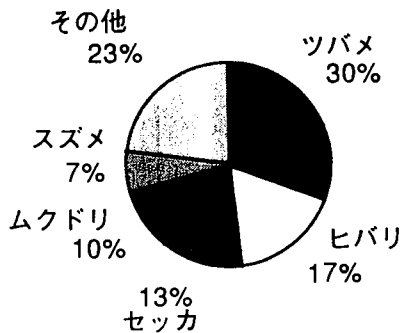
表4 種別年間累積個体数(水田・畑地)

順位	種名	個体数	順位	種名	個体数
1	ヒバリ	431	21	タイサキ	8
2	ハシボソガラス	174	22	キアシキ	8
3	ツグミ	127	23	カルカモ	5
4	ツバメ	114	24	アマサキ	4
5	スズメ	109	25	カシラダカ	4
6	タヒバリ	101	26	コイサキ	3
7	ムクドリ	72	27	モス	2
8	キョウジョシキ	54	28	タマシキ	2
9	ムナグロ	54	29	カラス属sp.	2
10	カワラヒワ	54	30	カイツブリ	2
11	セッカ	39	31	ハン	2
12	アトリ	37	32	キシ	2
13	ハクセキレイ	35	33	ホオアカ	1
14	キシハト	33	34	ホオシロ	1
15	チュウサキ	32	35	タケリ	1
16	オオシユリン	18	36	タンキ	1
17	カワラハト(附ト)	17	37	チョウゲンホウ	1
18	ハシボソガラス	15		計	1583
19	コサキ	10			
20	オヨシキリ	8			

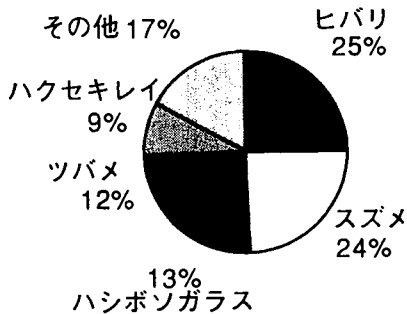
春期(3,4,5月)の累計(n=613)



夏期(6,7,8月)の累計(n=238)



秋期(9,10,11月)の累計(n=315)



冬期(1,2,12月)の累計(n=417)

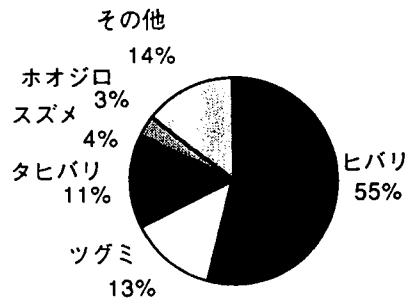


図7 各季節の優占種(水田・畑地)

表5 斜面林のセンサス結果 (1995年)

種名	月/日											
	01/11	02/16	03/16	04/14	05/16	06/16	07/14	08/24	09/14	10/18	11/16	12/21
ツミ					1							
コシユケイ	2			1		2			1			
キシ			1	2	1	1		1				
キシノト	10	2		2	2	4	1	6	4	1	1	
カクセミ								2				
コケラ	2	1	2	1	1						2	2
ツハメ				2	5	2						
ハクセキレイ	1		1	1	1	1						
セウロセキレイ	1											
ヒンスイ	4										1	
ヒヨトリ	9	9	22	18	9	11	15	13	28	46	28	24
モス		1							1		1	
ルビタキ	3		1									
トラツグミ		1	1									
アカハラ	1		1									
シロハラ		4	1	5								3
ツグミ	1	1		2								
ウグイス	2	1	2	1	1						5	2
キイタクキ	6	5	2									
ヒカラ	1	3	6									
ヤマガラ	2		3	1								
シシユウカ	5	4	7	2	3	6	2		5	8	1	4
ミンロ	12	4	6	11	2	3		1	4	6	10	7
ホシノロ				2	4	1						
アオシ	18	10	9	6							14	1
クロシ	2	3	2									
カワラヒワ	3	18	11	3	2	2	3		1	1	3	2
マヒワ	13											
シメ	2	4										
スズメ	5	4	3	7	9	6	9	4	8		4	
ムクドリ		8		18	6						1	
カス										1		2
オカ					3	1			1			
ハシホソガラ		1										
ハシトガラ	1	2	1	1	2	4	2	2	1			1
ツグミ亜科sp.											1	1
個体数合計	106	86	82	86	52	44	32	29	54	63	72	49
種数	23	20	19	19	16	13	6	7	10	6	12	10



図8 種数の月変化 (斜面林)

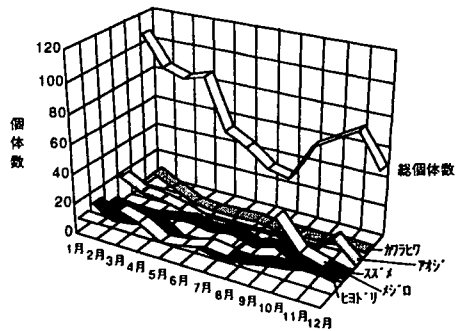


図9 個体数の月変化 (斜面林)

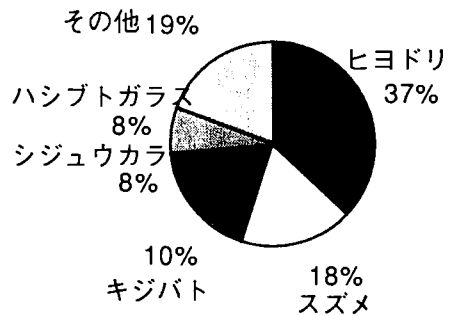
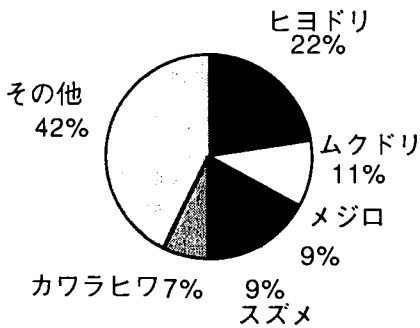


表6 種別年間累積個体数 (斜面林)

順位	種名	個体数	順位	種名	個体数
1	ヒヨドリ	232	21	キン	6
2	メジロ	66	22	シメ	6
3	スズメ	59	23	ハクセキレイ	5
4	アオジ	58	24	ヒンズイ	5
5	カワラヒワ	49	25	オカ	5
6	シジュウカラ	47	26	ツクミ	4
7	キンハト	33	27	ルビタキ	4
8	ムクドリ	33	28	モス	3
9	ハシブトガラス	17	29	カス	3
10	ウグイス	14	30	トラツグミ	2
11	キイタガキ	13	31	カケミ	2
12	シロハラ	13	32	アカハラ	2
13	マヒワ	13	33	ツクミ亜科sp.	2
14	コガラ	11	34	ハシホソガラス	1
15	ヒガラ	10	35	ツミ	1
16	ツバメ	9	36	セクロセキレイ	1
17	ホシロ	7	計		349
18	クロジ	7			
19	ヤマガラ	6			
20	ゴジュウカイ	6			

春期 (3,4,5月) の累計(n=220)

夏期 (6,7,8月) の累計(n=105)



秋期 (9,10,11月) の累計(n=189)

冬期 (1,2,12月) の累計(n=241)

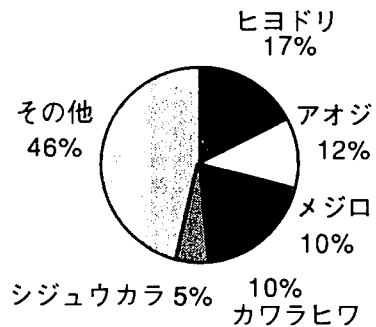
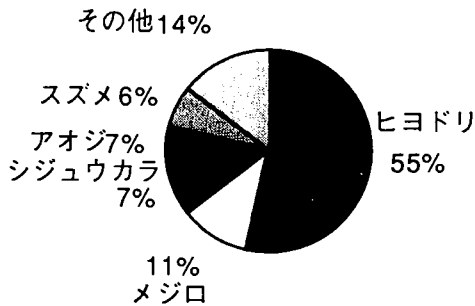


図10 各季節の優占種 (斜面林)

て最優占種であり、特に秋期には、全個体数の半数以上を占めた。

#### 引用文献

- 黒田長久. 1985. 水鳥の里、手賀沼—我孫子移転にあたって—。山階鳥類研究所報告17 (72): 3-8.
- 斉藤安行・百瀬邦和・平岡考・鶴見みや古・大山紀子. 1992 a. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅰ—ヨシ原、水田・畑地、斜面林 (1988-1991) —。我孫子市鳥の博物館 調査研究報告 1: 43-59.
- 斉藤安行・平岡考・百瀬邦和・鶴見みや古・大山紀子. 1992 b. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅱ—水面 (1988-1990) —。我孫子市鳥の博物館調査研究報告 1: 61-73.
- 斉藤安行・大山紀子. 1993. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅲ—ヨシ原、水田・畑地、斜面林 (1992) —。我孫子市鳥の博物館調査研究報告 2: 25-34.
- 斉藤安行・大山紀子. 1994. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅳ—ヨシ原、水田・畑地、斜面林 (1993) —。我孫子市鳥の博物館調査研究報告 3: 71-79.
- 平岡考・斉藤安行・百瀬邦和・鶴見みや古・大山紀子. 1994. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス調査Ⅴ—水面 (1991-1993) —。我孫子市鳥の博物館調査研究報告 3: 81-89.
- 斉藤安行・大山紀子. 1995. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅵ—ヨシ原、水田・畑地、斜面林 (1994) —。我孫子市鳥の博物館調査研究報告 3: 71-79.
- 平岡考・大山紀子・斉藤安行・百瀬邦和・鶴見みや古. 1995. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス調査Ⅶ—水面 (1994) —。我孫子市鳥の博物館調査研究報告 4: 55-60.

付表 調査日時と天候

調査日 月/日	天候	調査地					
		斜面林		ヨシ原		水田・畑	
		開始	終了	開始	終了	開始	終了
01/11	晴れ	08:41	09:57	08:41	09:57	09:48	10:41
02/16	曇り	08:40	09:30	08:27	09:23	10:52	11:23
03/16	晴れ	08:54	09:52	08:34	09:30	10:09	10:45
04/14	曇り	08:42	09:32	08:24	09:20	09:48	10:26
05/16	曇り	08:56	09:28	08:34	09:55	09:54	10:45
06/16	曇時々小雨	08:39	09:15	08:22	09:20	09:30	10:10
07/14	小雨	08:46	09:18	08:33	09:10	09:40	10:10
08/24	晴れ	08:20	08:58	10:28	12:24	08:30	09:35
09/14	曇り	08:45	09:26	08:31	09:20	09:55	10:23
10/18	晴れ	08:52	09:20	07:40	08:20	07:28	07:58
11/16	曇り			08:40	09:45	08:28	09:30
11/17	晴れ	08:56	09:45				
12/19	曇り			09:50	10:20		
12/21	晴れ	08:20	08:50			08:30	09:04

**Bird Census Report for Tega Marsh and Surrounding Areas VIII**  
**1995 Reedbeds, Farmlands, Woodlands**

Yasuyuki Saito, Noriko Ohyama

The Abiko City Museum of Birds and the Yamashina Institute for Ornithology conduct regular surveys of the avifauna in the Tega Marsh region. Birds habitats are divided into four basic categories, water surfaces, reedbeds, farmlands (including both wet rice paddies and dry fields) and woodlands. This report summarizes the 1995 data for reedbeds, farmlands and woodlands.

Reedbeds The edges of Tega Marsh, inside the levee, are occupied by beds of reeds, cattails and other aquatic plants, which offer habitat to various birds.

Research for 1995 identified 29 species in 16 families and 7 orders. The greatest number of species (17) was recorded in November, and the least (3) in June. Great Reed Warbler, which breeds in this habitat, was dominant from spring through summer. Tree Sparrow was dominant in fall and winter. Coot was common throughout the year.

Farmlands The low-lying areas around Tega Marsh are planted as irrigated rice paddy, and the higher, better-drained areas are used for dry vegetable fields.

Research for 1995 identified 36 species in 20 families and 9 orders. The greatest number of species (15) was recorded in May, and the least (2) in October. The most number of individual sightings was for Skylark (431), followed by Carrion Crow (174). Skylark were especially numerous from fall through winter.

Woodlands The slopes between the low-lying marsh and paddy habitats and the uplands are covered by a mixed coppice forest, including both broadleaved evergreen species (*Quercus*, *Castanopsis*), conifers (*Pinus*, *Cryptomeria*, *Chamaecyparis*) and broadleaved deciduous (*Quercus*, *Zelkova*) species. Research for 1995 identified 35 species in 17 families and 6 orders. The greatest number of species (23) was recorded in January, and the least (6) in July and October. Brown-eared bulbul was the most common species throughout the year. Other common species included Japanese White-eye, Tree Sparrow and Oriental Goldfinch.

**KEY WORDS:** Avifauna, count survey, reedbeds, farmlands, coppice forest, Tega Marsh

Abiko City Museum of Birds. Kohnoyama 234-3, Chiba, 270-11, Japan.